



亀井神道流 西日本吟詠会総本部 広報部
題字: 波多江啓峰

吟友



秋月城に残る黒門

亀井神道流発祥の地 秋月城址

古都秋月は、亀井神道流祖吉村東陽師の、出身地であり、吟詠を学ぶ私達の心の故郷とも言うべき神聖なところなのです。この秋月は、黒田藩祖黒田長政の三男長興が五万石で封じられた処です。元和九年(一六三三)八月、五万石の分知目録及び二人の付け家老と四十七人の家臣の名簿が渡され、ここに秋月藩が誕生しました。秋月藩は小藩ながら、質実剛健の気質を持ち、武芸や学問に優れた藩風を誇りとしたことでも知られています。

亀井南溟、昭陽に学んだ藩校稽古館教授、原古処の門下生吉村元紹から、剣道と吟道を教えられた、流祖吉村東陽師は、成人後、県庁に勤務の傍ら、吟道の修行と普及に尽力、亀井神道流を創流したことは、存知のとおりです。第二世宗家は甥の廣澤尚陽。第三世宗家の諫山岳陽は吉村宗家の直弟子です。

ところで、この写真は、秋月城址です。春は桜並木が、秋は紅葉が美しく、観光客が絶えません。また、藩政時代に奨励された、葛、和紙、焼き物、製糸等の特産品は、「筑前続風土記」によると、当時五十以上もの名産品が名を連ねたそうですが、その中の幾つかが今も伝えられています。

この機会に、先人を偲び、第二世宗家、故廣澤尚陽師の故郷でもある秋月の地を訪れたいものです。

亀井神道流吟詠発祥の聖地秋月を巡り、その源流に思いを馳せるのも大切なことであり、亀井神道流の正統な継承者である私達の務めの一つではないでしょうか。



残暑お見舞申し上げます

西日本吟詠会会員及び後援会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過しのことと拝察します。

又、日頃の本会活動と運営に何かとご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

特に、指導者の先生方におかれましては、新型コロナ禍が終息・収束しない中、種々の催事に多大なるご尽力を賜わり、重ねて厚く御礼申し上げます。ごぞいませ。

皆様ご存知の通り、少子高齢化とコロナ禍中であつて、吟界における本会の役割は益々、その重要さを増しています。

春の毎日吟士権大会を皮切りに、九吟連、西吟連、ポリドール吟詠会等各種大会に於ける出吟者数と運営委員数は、群を抜いています。今や本会会員

初秋所感

亀井神道流 宗家
西日本吟詠会 会長

諫山

岳陽

の協力無くしては、大会の成功が覚束無い状態と言つても過言ではないでしょう。

永年に亘つてお世話になつた吟詠への恩返しを今こそ行うべき時がやつて来たかと痛感しています。

さて、小生、長年の不摂生が祟つてちよつとの油断から腰を痛めてしまい、入院治療の止む無きに到りました。

その間、かなり長い間、指導者の皆様や会員の皆様に多大なるご迷惑をおかけしました。

この間、皆様から過分なるお見舞いと励ましのお言葉を頂戴し、この場をお借りして、心から厚く御礼申し上げます。

又、吟界の各先生や会員の方々にも大層ご迷惑をおかけしたことを衷心よりお詫び申し上げます。

お陰様で、順調に快方に向つておりますので他事乍らご安

心下さい。

健康に自信があつた私も今回は、油断をしました。

日頃、ダジャレを込めて「皆さん、つまらないことで骨を折らないで、詩吟で骨を折って下さい!!」と申し上げていた自分が、腰の骨を痛めてしまい、面目も無い次第です。

「腰」は「月」に「要」と書くように、人体の中でも正に「要」であり、最も大切な部分であります。

一言で腰痛にも色々あり油断は禁物である事を実感しました。

本会の皆様にも腰を痛める方が目立ちますが、どうか「腰」を呉れ呉れも大切にしてくださいと思います。

私は幸いにして、この分野専門名医済生会の安部哲哉先生を紹介して頂くことが出来ました。この幸運な出会いには、大変有難いことと深く感謝しています。

闘病中、ふと頭に浮んだ四文字熟語があります。

「盛者必衰」・「会者定離」

この言葉は、人生における避けることの出来ない運命を物語るものとして、よく使われています。

だからこそ、私達は、出会いを大切に、健康に気を配り、残された時間を有効に使つて行きたいと思つています。

正に、忘れてならないのは「二に感謝、二に感謝、三四が無くて、五に感謝」を痛感した次第です。

療養生活中、反省したことは、日頃当たり前と思つていること、何でも自分で出来ると思ひ込んでいたことが、いかに間違いでいかに周りの人達のお世話になつていたかということ。今年も残り四ヶ月です。新年

に立てた計画の中、やり残したことがあれば、第三コーナーのラストスパートをかけて下さい。

出版部では、来年の教材テキストやCDの制作が進行中です。今年の教材の消化不良が無いよう、努力精進を心から期待しています。

そして吟秋を心行くまで楽しんで頂くよう祈ります。

九州吟剣詩舞連盟吟詠大会

一位に 池田夏音さん 後藤菜乃実さん
 池田彩花さん 中島慶子さん
 稲毛幸栄さん 橋口満智代さん
 最優秀吟士権に 中内千鶴さん

九州吟剣詩舞連盟主催の第五十回春季競吟決選大会が、令和四年四月二十九日(金)祝太宰府市のプラムカールコア太宰府の大ホールで開催された。

理事長の諫山岳陽先生が、本大会は五十回目をむかえて、大層意義深く、おめでたいと挨拶された。

当日は、福岡、北九州、筑後、長崎各地区予選を通過した優秀な吟士と、昨年度までの優勝者による、最優秀吟士権の部で、日頃の練習の成果を発表した。

当日の本会の成績は次の通り。

●幼少年の部
 ○一位 池田夏音(太宰府慧陽会)
 ●中高年の部
 ○一位 後藤菜乃実(岩戸佳陽会)
 ●青年の部
 ○一位 池田彩花(太宰府慧陽会)



諫山岳陽 大会会長挨拶



審査規定発表 坂口篤壽先生

●熟年の部
 ○一位 中島光陽宗師範
 ●高年二部
 ○二位 林谷典陽師範代
 ○三位 八尋征陽師範
 ○五位 橋口康陽総師範
 ○六位 鳥井幸陽宗伝
 ○入賞
 安永奈智子(香椎了陽会)
 蒲池勝洋(太宰府星陽会)
 梶原翠陽師範代
 前田学陽師範
 後藤佳陽宗師範
 近藤晴陽宗師範

○奨励賞
 本田雅陽総師範
 安枝昭雄(太宰府星陽会)
 白石湊陽師範代
 ●高年一部
 ○一位 稲毛紅陽師範代
 ○四位 城 一枝(太宰府星陽会)
 ○五位 郷原菊代(岩戸征陽会)
 ○七位 松岡葵陽師範代
 ●和歌の部
 ○一位 橋口康陽総師範
 ○二位 田中了陽師範
 ○三位 林谷典陽師範代
 ○四位 恵内隆陽師範代
 ○五位 河原田和陽宗師範
 ○七位 入賞
 廣橋岬陽師範代
 松岡葵陽師範代
 郷原菊代(岩戸征陽会)
 蒲池勝洋(太宰府星陽会)
 ○奨励賞
 矢野董陽師範代
 矢津田煌陽師範代
 梶原翠陽師範代
 八尋征陽師範
 ●最優秀吟士権
 ○第一部 中内千鶴(太宰府恵陽会)



中高年の部1位 幼少年の部1位
後藤菜乃実さん 池田夏音さん



最優秀吟士権第一部
中内鶴山さん



和歌の部 3位 田中了陽師範(左) 1位 橋口康陽総師範(右)



高年2部2位 3位
林谷典陽師範代(中) 八尋征陽師範(右)



熟年の部1位
中島光陽宗師範

吟士権を頂いて

中内 鶴山

この度、思いもよらず九吟連で、吟士権を頂くことが出来ました。導いて下さった先生方と、その生徒さん達との練習風景を見取ることの大事さを、実感出来た事が、私の内面に大きな刺激となってくれたようです。詩吟を初めて8年にしての気づきなのですが、コツコツと根気強く平山恵陽先生が助言して下さいましたこと、多いに役にたつたと思ひ深く感謝しております。これから、見取りケイコを出来るだけ経験して、詩吟や和歌に反映させて行けるように、基本を忘れずに、目や耳を開放して、日々、楽しみながら、声を出して行くことの大切さを、改めて心に刻む九吟連での吟士権だと受けとめています。学ぶことの多い経験を、ありがとうございます。



閉会の辞 山下白峰先生

第44回 毎日吟士権本選大会

吟士権Ⅱ 船木涼陽指導師範代(一般二部) 準吟士権Ⅱ 橋口康陽総師範(高齢者二部)

令和四年五月十五日(日)
(毎日新聞社主催、RKB毎日放送、スポーツニッポン新聞社後援)の決選大会が太宰府市のプラム・カルコア太宰府で開催された。

この大会は九州、山口、島根の各県から予選を勝ち抜いた三三四名が各部門の吟士権を目指して、日頃の成果を披露した。

尚、当日は諫山宗家が常任審査員として競吟上の注意を発表した。



開会の言葉 山中鈴鶯先生



競吟上の注意をされる諫山岳陽会長

当日の入賞者は次の通り。

◆和歌の部

○入賞

- 松嶋蓮陽宗師範
- 船木燦陽宗師範
- 中島光陽宗師範
- 橋口康陽総師範
- 森田綾陽総師範
- 柴田聖陽指導師範代
- 土屋綾峰(北野督陽会)
- 中内鶴山(太宰府恵陽会)

◆高齢者二部

○準吟士権

橋口康陽総師範

○三位

富永延峰(太宰府綾陽会)

◆高齢者一部

○三位

梁池梁陽宗師範

○入賞

山口呂陽宗師範

久保山孝陽宗師範

榑崎忠陽総師範

林谷典陽支部師範代

◆一般三部

○入賞

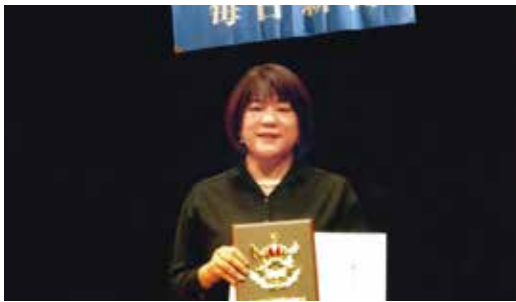
広橋岬陽支部師範代

中内鶴山(太宰府恵陽会)

◆一般一部

○吟士権

船木涼陽指導師範代



一般二部吟士権 船木涼陽指導師範代



高齢者一部三位入賞 梁池梁陽宗師範



高齢者二部三位 富永延峰さん



高齢者二部準吟士権 橋口康陽総師範

指導師範代 船木 涼陽

毎日吟士権大会一般二部に出吟し、吟士権を頂戴しました。

仕事や体調都合で、しばらく詩吟から離れていましたが、何気なく申込要領の吟題に目を通すと「春風」に目が留まり、何度か声に出して読むうちに「吟じてみたい」という気持ちが出てきました。ずっと稽古もしておらず、不安はありましたが、燦陽会の練習方針である一日一吟(結果的には週一で一吟になってしまいましたが)を頼りに、予選から決選まで悔いなく吟ずることが出来ました。入会当初から、優しくも厳しくご指導くださった、高木仁陽先生の基本の教えを思い出し、また出吟当日、進行や司会伴奏でお忙しい先生方から応援や励ましを頂いた事が、全力を出す原動力になったと感じております。

末尾ながらお礼申し上げます。二層の精進をお誓い致します。

第三十三回 和歌朗詠大会

吟士権者に土屋綾峰さん

第三十三回和歌朗詠大会が五月二十九日(日)太宰府中央公民館多目的ホールで開催された。

大会会長諫山宗家は、ご挨拶の中で「この大会は、毎日吟士権に和歌部門が新設される三年前に開催されたものです。現在では、吟界の大会でも和歌部門が設けられ、和歌朗詠の魅力が再認識されています。又和歌朗詠は、祝吟や弔吟等幅広く活用されています。太宰府天満宮「曲水の宴」でも朗詠者として参宴、活躍しています。今迄にも沢山の方が朗詠されましたが、初めての方も順に出吟出来るでしよう」と述べられた。



開会のことば
高木仁陽大会本部長



諫山岳陽
大会会長のご挨拶



審査上の注意
野村聡陽大会会長代行



会詩吟吟
古澤奏陽大会副本部長

当日の成績は次の通り。

吟士権の部

◎最優秀吟士権者

土屋綾峰(北野督陽会)

◎最優秀賞

蒲池勝峰(太宰府星陽会)

◎優秀賞

杉谷玲峰(香椎了陽会)

安永奈峰(香椎了陽会)

白石承峰(吟友光陽会)

池田莉月(太宰府慧陽会)

池田華月(太宰府慧陽会)

◎優良賞

泉田千月(太宰府仁陽会)

益永時月(太宰府仁陽会)

中川礼川(太宰府仁陽会)

- 住田博山(太宰府奏陽会)
- 萱嶋桃峰(太宰府星陽会)
- 平嶋和山(太宰府星陽会)
- 山崎晴山(太宰府星陽会)
- 城 桜月(太宰府星陽会)
- 山口真峰(太宰府蓮陽会)
- 山田敬川(太宰府蓮陽会)
- 中川万峰(太宰府君陽会)
- 今泉鶴月(太宰府君陽会)
- 古賀箔峰(岩戸扇陽会)
- 内野青峰(筑紫野観陽会)
- 石崎宝月(筑紫野観陽会)
- 早野俊川(朝倉英陽会)
- 森 康峰(岩戸佳陽会)
- 首藤伸峰(岩戸佳陽会)
- 福山博峰(香椎晴陽会)
- 中垣千月(香椎晴陽会)
- 沖 幸川(太宰府絃陽会)
- 樋口恵山(岩戸梁陽会)
- 芳澤佳川(筈陽会)
- 佐々木明月(北野真陽会)
- 中山秀峰(雅陽会)
- 坂本綾峰(雅陽会)
- 栗須弘峰(雅陽会)
- 恵内瑞山(雅陽会)
- 小野律山(太宰府啓陽会)
- 富永延峰(太宰府綾陽会)

◎奨励賞

- 栢込幸山(太宰府奏陽会)
- 蒲池香山(太宰府星陽会)
- 安枝昭月(太宰府星陽会)
- 吉川栄月(太宰府星陽会)
- 高松智川(小郡星陽会)
- 岡田洋月(岩戸扇陽会)
- 松原武月(筑紫観陽会)
- 大田富月(太宰府絃陽会)
- 中野香川(北野真陽会)
- 小路糸山(吟友光陽会)

◎幼年入賞

池田夏音(太宰府慧陽会)

◎新人奨励賞

名和登茂子(太宰府仁陽会)

黒岩みさ子(太宰府星陽会)

野口剛生(愛宕西陽会)

中山由美子(岩戸梁陽会)

◎特別奨励賞

名和登茂子(太宰府仁陽会)

萱嶋功峰(太宰府星陽会)

原 信山(太宰府星陽会)

宗 國山(太宰府星陽会)

熊谷紀川(太宰府星陽会)

石橋敬川(太宰府星陽会)

高松智川(太宰府星陽会)

上田彰山(太宰府君陽会)

森永祐山(太宰府君陽会)

森 康峰(岩戸佳陽会)

花田好峰(岩戸佳陽会)

篠原功峰(愛宕西陽会)

岡本江月(太宰府絃陽会)

大田富月(太宰府絃陽会)

白石紀峰(吟友宝陽会)

長澤竹山(吟友宝陽会)

波多紀山(吟友宝陽会)

白石承峰(吟友光陽会)

富永延峰(太宰府綾陽会)

溝口静峰(岩戸征陽会)

◎特別精励賞

内山節月(吟友宝陽会)



最優秀吟者権 土屋綾峰さん



最優秀賞の
蒲池勝峰さん(左)

優秀賞入賞の皆さん

受賞の喜びを糧に

更なる飛躍を!!

令和四年五月二十九日、第三十三回和歌朗詠大会吟士権の部に出吟(苦節十年)念願の吟士権を受賞する事が出来感激しています。

欲を出さず平常心を心掛けるだけで精一杯、幾度となく落ち込みました。然し育成研修で宗家会長の適格なご指導を受け、又CDを繰り返し聞き少しずつ体調を取り戻し諦めずに良かったと思えました。

これからの吟の出発点、第一歩かと心機一転多くの課題をクリアして精進を重ねてまいります。今後共、ご指導の程よろしくお願いいたします。

第二十九回 太宰府天満宮杯吟詠大会

福岡地区予選大会

西日本地区吟詠剣詩舞連盟(大田虹松会長)主催、第二十九回太宰府天満宮杯福岡地区予選大会が、六月十二日(日)プラム・カルコア太宰府で開催された。



審査上の注意 坂口篤壽大会副会長



開会の辞 諏訪扇翠大会総務

本会から各部門において多数の方々が入賞を果たし決選大会へ駒を進めた。



諫山岳陽大会会長 挨拶



大田虹松連盟会長 挨拶

当日の成績は次の通り。

● 幼少年の部

○入賞

島原桜都(岩戸佳陽会)

池田夏音(太宰府慧陽会)

● 中高生の部

○入賞

島原大宙(岩戸佳陽会)

● 青年の部

○入賞

池田莉菜(太宰府慧陽会)

池田彩花(太宰府慧陽会)

● 高齢者二部

○入賞

鳥井幸陽宗伝

橋口康陽総師範

篠原 功(愛宕西陽会)

富永延代(太宰府綾陽会)

中島江陽師範代

原 信之(太宰府星陽会)

江藤炎陽師範代

井上三津男(岩戸昇陽会)

松嶋蓮陽宗師範

平山恵陽宗師範

近藤晴陽宗師範

榑崎忠陽総師範

森 玲陽師範代

白石眞一(吟友光陽会)

後藤佳陽宗師範

山田啓陽宗師範

溝口静子(岩戸征陽会)

加藤督陽宗師範

菅野吉也(香椎晴陽会)

宗 國弘(太宰府星陽会)

松浦菊陽師範代

● 高齢者一部

○入賞

八尋征陽師範

山口呂陽宗師範

前田学陽師範

野村真陽宗師範

藤波純子(岩戸扇陽会)

池田慧陽師範

蒲池勝洋(太宰府星陽会)

本田雅陽宗師範

柴田聖陽師範代

吉弘翔陽宗師範

坂本敬子(雅陽会)

● 和歌の部

○入賞

郷原菊代(岩戸征陽会)

中尾映陽師範代

稲毛紅陽師範代

佐々木明子(北野真陽会)

竹内由美恵(香椎晴陽会)

山口皇陽師範代

中島風陽総師範

田中了陽宗師範

矢津田煌陽師範代

成海宝陽宗師範

河原田和陽宗師範

福山 博(香椎晴陽会)

久保山孝陽宗師範

柴田勘陽師範

森本賢陽師範代

中垣千佐子(香椎晴陽会)

大田心陽師範代

白石湊陽師範代

久我節子(岩戸扇陽会)

古賀西陽宗師範

坂本恭陽師範代

山口真理子(太宰府蓮陽会)

栗須ひろ子(雅陽会)

榑原智陽師範代

恵内隆陽師範代

井口蘭陽師範代

中島光陽宗師範

香月穂陽師範代

中内千鶴(太宰府恵陽会)

廣橋岬陽師範代

森田綾陽師範代

沖 さち子(太宰府絃陽会)

倉内京陽師範代

● 和歌の部

○入賞

橋口康陽総師範

松嶋蓮陽宗師範

平山恵陽宗師範

近藤晴陽宗師範

榑崎忠陽総師範

白石眞一(吟友光陽会)

八尋征陽師範

小松扇陽宗師範

池田慧陽師範

野村真陽宗師範

蒲池勝洋(太宰府星陽会)

柴田聖陽師範代

吉弘翔陽宗師範

郷原菊代(岩戸征陽会)

稲毛紅陽師範代

山口皇陽師範代

矢津田煌陽師範代

成海宝陽宗師範

河原田和陽宗師範

久保山孝陽宗師範

栗須ひろ子(雅陽会)

柴田勘陽師範

恵内隆陽師範代

中島光陽宗師範

香月穂陽師範代

中内千鶴(太宰府恵陽会)

廣橋岬陽師範代

田中了陽宗師範

中山秀子(雅陽会)

後藤佳陽宗師範

山田啓陽宗師範

萱嶋紀代(太宰府星陽会)

前田学陽師範

田中観陽宗師範



青年の部入賞
池田莉菜さん・池田彩花さん



幼少年の部・中高生の部 入賞の皆さん

- 北川英陽宗師範
- 本田雅陽宗師範
- 久我節子(岩戸扇陽会)
- 早野俊次(英陽会)
- 倉内恵子(吟友光陽会)
- 特別奨励賞
- 鳥井幸陽宗伝
- 有岡紘陽宗師範
- 橋口康陽総師範
- 篠原 功(愛宕西陽会)
- 溝口静子(岩戸征陽会)
- 富永延代(太宰府綾陽会)
- 中島江陽師範代
- 加藤督陽宗師範
- 菅野吉也(香椎晴陽会)



閉会の辞 吉村梨洲先生



特別奨励賞の皆さん



特別精励賞の皆さん



挨拶と講評
小林快川総本部会長



開会のことば
本部長代行

今年も山口県をはじめ福岡・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島から多数の吟士が全国大会を目指して、熱吟を披露した。大会当日は総本部より小林快川会長と辰巳快水副会長にもご臨席いただき、講評と範吟を頂戴した。競吟は幼少年の部・青年一部・青年の部・壮年の部・和歌の部に別れて行われた。

令和四年七月三日、第四十九回ポリドール吟詠会全国吟詠コンクール九州山口予選大会が、プラムカルコア太宰府で開催された。

令和四年七月三日、第四十九回ポリドール吟詠会全国吟詠コンクール九州山口予選大会が、プラムカルコア太宰府で開催された。

ポリドール吟詠会
九州山口
予選大会

優勝者には太宰府天満宮賞・準優勝者には毎日新聞社賞・第三位には、RKB毎日放送賞と総本部より金銀銅メダルが贈られた。又各部門入賞者には、全国大会出場資格と、金メダルが贈られ、優秀賞受賞者には銀メダルと賞状が贈られた。

競吟後は小林快川先生の講評と辰巳快水先生の範吟が披露され素晴らしい吟に感動した。尚当日の入賞者は、来る十月十日(祝)大東市立市民会館で開催される全国コンクールに出場する。本会からも多数の会員が活躍が期待される。

優勝者には太宰府天満宮賞・準優勝者には毎日新聞社賞・第三位には、RKB毎日放送賞と総本部より金銀銅メダルが贈られた。又各部門入賞者には、全国大会出場資格と、金メダルが贈られ、優秀賞受賞者には銀メダルと賞状が贈られた。



諫山岳陽
大会会長挨拶



範吟
辰巳快水総本部副会長

- 入賞
- 優勝 野村マリ子
- 第三位 杉谷玲子
- 入賞
- 幼年の部
- 優勝 池田夏音(太宰府慧陽会)
- 準優勝 島原大宙(岩戸佳陽会)
- 第三位 島原桜都(岩戸佳陽会)
- 入賞
- 青年の一部
- 優勝 釋迦郡颯斗(宮崎鶯陽会)
- 準優勝 池田莉菜(太宰府慧陽会)
- 第三位 池田彩花(太宰府慧陽会)
- 青年の部
- 優勝 後藤菜乃実(岩戸佳陽会)
- 準優勝 恵内 隆
- 第三位 中内千鶴(太宰府恵陽会)
- 入賞
- 壮年の部
- 優勝 倉内恵子・中島恵子
- 準優勝 田中五月(岩戸扇陽会)
- 第三位 樋崎忠吾・橋口満智代
- 入賞 蒲池恵子・萩森由紀子
- 準優勝 稲毛幸栄・安永奈智子
- 第三位 吉弘勝幸・蒲池勝洋
- 入賞 北川英昭・池田智恵子
- 準優勝 田中了子・中島久子
- 第三位 山口和洋・竹内由美恵
- 入賞 佐々木明子・城 一枝
- 古賀誠一

本会会員の成績は次の通り。



伴奏 琴 生田流師範 原タカ子先生(右)
尺八 都山流師範 原國龍先生(左)

○奨励賞

- 八尋征子 ・ 後藤ひろみ
- 白石眞一 ・ 森 和教
- 近藤晴子 ・ 江藤利幸
- 中島昭代 ・ 郷原菊代
- 本田鈴子 ・ 白石美恵子
- 小野律子 ・ 松岡幸子
- 河原田和子 ・ 矢野恵美子
- 江藤義雄 ・ 坂本敬子

◆和歌の部

- 優勝 野村マリ子
- 準優勝 森田睦子
- 三位 折居英理子

○入賞

- 萩森由起子・柴田美津子
- 吉弘勝幸 ・ 池田智恵子
- 前田和宏 ・ 榎崎忠吾
- 橋口満智代 ・ 中内千鶴
- 中島慶子 ・ 恵内 隆
- 榎崎美智子・松岡幸子
- 河原田和子・山口和洋
- 古賀誠一

○奨励賞

- 郷原菊代・北川英昭
- 蒲池勝洋・八尋征子
- 山田豊子・白石眞一
- 森 和教・中島昭代
- 柴田廣隆・佐々木明子



青年の1部 入賞者



幼少年の部 入賞者



宮崎から参加の釋迦郡颯斗さん



壮年の部 優勝 野村真陽宗師範(左)



和歌の部 優勝 野村真陽宗師範(左)
準優勝 森田綾陽総師範(中)
三位 折居英理子さん(右)

味のある吟詠の提案(4)

吟詠の基本姿勢 正しい姿勢でなければいい声は出ない

いい声を出す基礎固め

今回から吟詠の発声についていろいろ考えていきたいと思います。

吟詠は漢詩・和歌・近代詩など、詩歌の中にこめられた、作者のところに共鳴し、それを自分のものでして声に出して表現していく芸術です。したがって、詩のこころと吟じる人のこころが一体になったとき、初めてすばらしい芸術となつて聞く人を感動させるというわけなのです。ですから、吟詠のうた声は単に美しいというよりも、よく

響く声、それに情感豊かな声であることが望まれます。つまり、聞く人に迫りかけるような朗々とした響きのある声、そしてまた、聞く人の感動を呼び起こすような表情豊かな声が必要とされます。そこでそうした響きと情感豊かな声を出すための基礎固めが必要なのです。その基礎固めの第一は、吟詠する時の基本姿勢と呼吸法です。

詩歌を吟じるにあたっては「必ずこの姿勢でなければいけない」といったきまりはありません。しかし発声学から言いますと、からだのしくみに応じた合理的な姿勢・正しい基本姿勢というのがあります。その姿勢で吟じれば、よく通る響きの豊かな声を、長く出すことができるというわけなのです。

からだのしくみに応じた姿勢

●気持ちを楽にして立つ

まず、気持ちを楽にして、まっすぐ立つて下さい。この時の両足は肩幅と同じ位に開きます。男性の場合は両方の足先がやや外側に向くようにし、

く響いて、情感豊かな声を出すためには長い息が必要となります。そのためには、からだがいい楽器になる正しい基本姿勢と無理のない自然の呼吸法がどうしても必要になります。つまり、からだのしくみを合理的に利用するためにふさわしい姿勢と息の吸い方(吸息法)はき方(呼息法)、いわゆる呼吸のしかた(呼吸法)を身につけなければなりません。まず、正しい基本姿勢についてお話ししましょう。

女性の場合はずま先とかかとを結んだ線が平行になるように、またはつま先がいくらか内側に向くように置いて下さい。

「両足を肩幅と同程度に開く」ことについて、「吟詠は礼と節を尊ぶ芸術、舞台でそんな格好をすることは出来ない」とおっしゃる方があるかもしれませんが、最初の練習時だけは一応この姿勢をとって下さい。

その後の練習によって発声のコツを体得したら、礼を失しない程度に足幅を狭くする工夫をご自身でしたらいいと思います。特に女性の場合、足を開いたまま立つことは日常の感覚からしてもみつもみもない感じがです。つま先を内側にして足の開きが目だたないようにする工夫が必要でしょう。

●背すじをのばす

次に全身の力を抜いて、背すじをのばして下さい。全身の力は首・肩・膝・肘などに抜ける筈です。背すじは背中とおなかにくいと力を入れてのばすのではなく、軽くのびをする気持ちでのばすのです。

かかとから頭のてっぺんまでつながったひもで、軽く引っぱりあげられている感じになつていれば完全です。

●臍下丹田に気を入れる

それができたら、へその少し下の部分(いわゆる臍下丹田)にからだ全体の重みが集中しているような感じに重心のバランスをとって下さい。これを「臍下丹田に気を入れる」と言います。力を入れるものではありません。気を入れるのです。

●重心を土踏まずの真上に

これが出来たら、今度は背すじをのばしたまま、からだの重心が足の裏の土踏まずのちょうど真上に来るように、上半身をこころもち前かがみに曲げて下さい。この曲げの程度を肥満型の人と瘦身型の人と比べると、当然のことながら、肥満型の人の方が大きくなります。吟じる時には、重心が縦の線では土踏まずの真上、横の線ではその下にこないという声が出ないので、よく直立不動の姿勢をとっている人がありますが、これでは瘦身型の人はともかく、肥満型の人は重心が土踏まずからずれ、しかも臍の下より上にきますので、あまり

いい声が出ないのです。重心は男性・女性に関係なくへその下、別の言葉で言えば、臍下

丹田を意識を集中させること、これをくれぐれも忘れな

●武道や舞踊の自然体に近い姿勢

この形が出来たらだれかに胸を軽く押ししてもらって下さい。もしあなたが私の説明通りの完璧な姿勢をとっていたら、少々押されてもどしりして、よろめくことなどない筈です。もしよろめいたと

したら、身体はどこかに力が入っているか、臍下丹田への気の入れ方が足りないからだと思います。臍下丹田に気を入れるには、最初のととき、条件に揭げたように全身の力を抜くことが大切です。力が入っていると丹田に気が入らず、かえって不安定になります。

からだの重心を丹田に落ちつかせることが出来れば、足の位置や開き具合が少々悪くとも、どしりとした姿勢を作ることが出来ます。この姿勢について、武道や舞踊に親しんだことのある人なら、「ははんと思っているところがあ

いたもので、この姿勢こそ、からだの各部の調整を自由にこなす姿勢なのです。そして同

時に、からだのしくみを合理的に利用し、よりよい発声をするためにも、最もいい姿勢、つまり、吟詠のための正しい基本姿勢でもあるのです。

●眼はなるべく遠くを見る

この姿勢が出来たら、今度はからだの各部分をチェックしましょう。

姿見があつたら、その前に立つて下さい。頭はからだの線にあわせてまっすぐにします。眼は後頭部に意識をおいてなるべく遠くを見る感じ、視線は実際の眼の位置よりもこころもち下方に保ちます。手は自然におろした状態でも結構です。ただし力を入れ

た状態はよくありません。●ハイヒールは声を殺す
なお、参考までに付言しておきますと、吟詠のときは、きものは、前かがみの状態を作るという意味で、つま先よりもいくらか、かかとの部分が最も高いのが最高です。かか

なりますから、ぞうりでも十分に良い姿勢を作ることが出来ます。女性のぞうりは、いくら

かかかと高になつていきますから理想的な高さものです。この全く逆がハイヒールです。ハイヒールだと、かかどが高いところから必然的に腰に力が入り、重心も腰に移動、結果として中年の肥満型の人が棒立ちになったのと同じ体型になります。つまりせつかくの発声機能を悪くしてしまう形になるのです。

吟詠は日本の芸能なので、すから、日本の衣裳で舞台上立つべきだという意見がありますが、私としては、発声のための正しい姿勢を作るためにも和服の愛用をおすすめ

●この基本姿勢の訓練を

以上、今回は吟詠の基本姿勢について述べましたが、この基本姿勢は、これから学習する呼吸法の基礎にもなりますので、日々練習し、特別に意識しなくても、吟じる時は、自然にこの姿勢になるように、しっかりと身につけておいていただきたいと思

います。

「漢詩と諺」

シリーズ

No.13

子孫の為に
美田を買わず

有名な西郷隆盛の家訓です。自分の子孫の為に、財産を残してはならぬといういしめです。

西郷は、かねてより、「命もいらす名もいらす官位も金もいらぬ人は始末に困るものなり」と言っていました。そういう人でなければ、無私の心で、大切な事をなすとげられる筈がないということでしょう。この「始末に困る」人、二人がなしとげた偉業が「江戸城の無血開城」です。相手は勝海舟。徳川家の運命を一身に任された人でした。

徳川二六〇年間、戦争の無かった時代に作り上げた江戸の町が、戦火で焼け野原になつてしまつたら、その損失ははかり知れず、近代化など言うに及ばず、日本を狙っている外国にも隙を作つてしまいます。

勝海舟は一身にかえて徳川

慶喜に江戸城開城を迫り、又、相手が西郷隆盛だったから、相手を信じて「江戸城無血開城」の運びとなり、江戸の町は戦火をまぬがれたのでした。

勝はその後、無位無官となつた徳川慶喜の名誉挽回の為、他人に悪口を言われながらも明治政府の一員となり、遂に慶喜に明治天皇お目通りをかなわさせ、爵位をもらわせる事にも成功します。

明治の元勳の西郷も、地位や豪邸、栄耀豪華も望みのままだった筈ですが、そういうものは望まず、新政府では参議、陸軍大将を務めますが、征韓論政変で下野、鹿児島に帰郷して私学校を設立。暇なときは、上野の彫刻のよくな姿で犬をお供に狩りをして野山をかけめぐつておりました。

この私学校の学生をはじめ、多くの若者におされて西南の役の頭領となり、戦いに敗れて、城山で自刃します。享年五十一歳。真に質実剛健、日本人が今でも大好きな偉人です。

第二十九回 大宰府市文化協会
春の祭典

令和四年五月二十二日(土) 二十二日(日) 大宰府市制施行四十周年記念の「春の祭典」が、プラム・カルコア大宰府にて開催された。

大宰府市吟詠剣詩舞連盟も二十二日に参加し、歌謡吟詠「荒城の月」の合吟を、十六名で合吟した。

次に正義流政武館から六人の剣舞、次に日本國風流邦勝会から詩舞「月下の古城」と「小楠公」を松嶋蓮陽宗師範の詩舞と平山恵陽宗師範の地吟で披露した。

立派にそろつた合吟や、詩舞と地吟、勇ましい剣舞に観客は大拍手していた。



合吟「荒城の月」



久保山先生の剣舞



松嶋先生の詩舞

時の記念日の
行事

(大宰府市民遺産第六号)

大正十年から全国で始まつた「時の記念日」の行事。ここ

大宰府では奈良時代に漏刻(水時計)が置かれたと伝えられる「辰山(月山)」を望む都府楼跡で、記念式典が行われていました。現在まで引き継

がれているこの行事は、大宰府市民遺産に登録されていま

す。六月十日午前六時十分を目前に、都府楼跡正殿の石碑前に集合した参加者は、時間ぴつたり集合すると賞品が授与され、歌を合唱、各々出し物を披露し懇談します。時を大切に思うし気持ちに次代へ引きついでいきたい、大切な行事のひとつです。

参加者 大宰府君陽会
時は金なり 時は待たず

「時の記念日」の行事で
合吟しました

大宰府君陽会 上田 彰山
県下のコロナ警報が解除された六月十日、微風快晴のも

と、「時の記念日」記念行事が、大宰府政庁跡で行われました。

奈良時代に時を刻む漏刻が築かれた月山を背にして、君陽会一同で、

「大野山 霧立わたる我が嘆く

息嚙の風に 霧立ちわたる」

「水城の里や 榎寺

観世音寺の 暮の鐘

「少年老い易く 学成り難し」を朗詠しました。

参加された皆様も一緒に吟じ、その声は大野山に響き渡りました。

平成二十三年に大宰府市民遺産に制定されたこの行事に、私達は毎回、参加しております。



時の記念日@大宰府政庁跡 正殿前

姫島にて 望東尼を思う

師範 前田 学陽

姫島は、福岡県糸島市の岐志港から、連絡船で二十分程の沖合いにある、小さな島である。

私が最初に知ったのは五十年前、釣りが好きで、しばしば出かけた防波堤で、偶然に、野村望東尼と記入された石碑と小さな祠を見つけた時である。

若気の至りで歴史に興味こそなかったが、五十年後の今でも、ぼんやりとその存在を憶えている。

詩吟を始めて望東尼のことを知った。久しぶりに釣りを兼ねて、姫島へ行き、望東尼のいた獄舎跡を訪ねてみようと思った。

書籍では、幕末の志士達を匿った罪で、姫島に流罪とある。置のない小さな獄舎に、十か月程投獄されていたことを知り驚く。望東尼六十歳の冬である。

うき雲のかかるもよしやものふの
大和心のかずにいりなば

疑いが掛かるもよしとして、大和魂をもつ勤皇志士の一人

に加えてもらえるならばと、劣悪な状況の下で毎日日記を書き、又、毎日二十五日には天神様を拜んでいた。その後、高杉晋作の命を受けた六名の福岡藩士は脱藩し、望東尼を救出する。

その後、高杉晋作は病床に伏していたが、枕元の望東尼に「面白きこともなき世に面白く」と上の句を詠んだとの事。望東尼は「すみなすものは心なりけり」と下の句を詠んだとのこと。二人の心の交流がしのばれる。

望東尼は六十二歳の時、防府市三田尻で亡くなった。詩吟を始めたお陰で、望東尼のことや姫島が、身につまされました。

姫島は、五十年前の姿から見違える程きれいに整備され、また史跡を見て住民の方が、これ程望東尼を大切にされているのかと、大変嬉しく思ったことでした。



特別寄稿

西郊の夕べ

内田 龍陽

西風瑟瑟 虫声を浸す

都府樓の辺 涼意盈つる

千里悠悠 月下を行く

孤僧の帰影 草鞋軽し

(詩意)

旧跡、都府樓の辺に新秋の涼を求めて立てば、虫の音も地に浸る様に聞こえて来る。

ふと動く影の方に目をやると、処々方々を行脚して帰る処だろうか。独りの僧が、草鞋の足どりも軽やかに、月の明かりを随えて、帰っていく。

犬と孫と

久我 節峰(若戸扇陽会)

週毎の詩吟教室閉鎖され

自習はせぬのか夫の問えども

吟ずれば逃げ出すテリーがゆくりなく

テープに遣す身震いの音

籠る日々這う兎のために磨く床

老いたるジユニア時に滑れる

兎に刺きし甘夏の香のほかにも

静かとなりし 居間に漂う

海辺より遠く砂場に桜貝

色褪せてに個兎に拾われる

大根を兎は真白と思つらし

下ろせし青首さ緑の色

狭庭辺の花木次々花咲かす

今朝の香は茱萸の開花か

満開のとなりし桜にヒヨドリ

数多寄り来て花びら散らす

ヒヨドリの溢れる狭庭の青空に

鋭利な飛行燕現る

短歌 七月 白い花

紫のまつりかの花白に変わり
日暮れの道に芳香放つ

数日の雨たつぷりと吸い上げて

カラーは白き花伸ばし来る

紅につつじ五木の咲き競い

最後の白のやつと開花す

こうえんに株分けをせし蚩袋

姑愛でし花ことしも白く

枝先に白き小花のネスミモチ

蜜蜂誘う強き香の

短歌 六月 茱萸の香

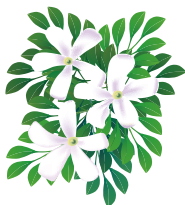
古賀 留美子(太宰府燦陽会)

刈り込まれ小枝ばかりの老木も

白梅咲かし小鳥寄り来る

蠟梅を一枚たおり仏壇へ

早春の香に香をたかず



新婚当時の思い出

シリーズ 14

宗師範 成海 宝陽

お恥ずかしながら、なれそめのエピソードを……

昭和四十五年秋、ブルートレインさくらで、長崎から東京への一人旅。

通路際の椅子に坐って、窓の外を見ていましたら、二人の男性が、八十円のジュース缶をもって話しかけて来て、ジュースを私にくれました。アラー！

渥美清のトラさんに似たような方で、成海誠さん。すぐに話はずみ、実家が下関で、転勤で長崎の諏訪神社の近くに住んでいて、職場は長崎桜町市役所の近く。マア機関銃みたいの話が止まらず、いつの間にか八十円のジュースで丸め込まれて、私も長崎銅座の美容室で働いていましたので、いつの間にかお付き合い合っていました。昭和四十六年十月三十日に結婚。三人の子供も生まれました。



平成元年、福岡に転勤。私にとりましては、福岡に住めて(バンザイ！)

又、主人が熊本転任！

(イッテラッシャイ)「亭主達者で留守が良い。」「通い妻になって熊本に七年で、五十八才、早めの退職。

六十六才で、すい臓ガンで永眠。

戒名は 輝翔院浄攪賢榮大居士

「我が家の家宝」

シリーズ 36

林谷 典陽

今日も元気で清々しい朝を迎え、一日がスタートしました。

我が家には、家中を見廻しても代々伝えられたという宝物はありません。

思い悩んでいた時に目に留ったのが、この仏画です。そう、これが唯一、我が家の宝物といえる物だったので。

これは私の亡き父が、得度を終え、僧侶の資格を持ち、だるま大師や菩薩様を書き始めました。

当時、日常的に手指の震えがあり、お茶を飲む時にも少々おぼつかない状態でしたが、いざ仏画を描き始める前、お参りを終え筆を持つと、ピタッとその震えが止まり、スーッと描き始められるのです。

この画は、私の守り本尊である大日如来様です。遠く実家のある高知から大阪に嫁いでゆく私の健康と幸せを願い、描き上げてくれました。父の想いに重ねて、大日如来様が、守っていて下さった。

この歳になり、改めて元気な日々感謝すると共に父の愛、大日如来様の御加護を感じております。

この原稿のお役目を頂きまして感謝申し上げます。ありがとうございます。



大日如来像

私の秘伝料理 シリーズ 23



みんなの家庭の定番料理

我が家の照り焼は スタミナチキン照り焼

宗師範 本田 雅陽

材料

鶏もも肉…2枚 酒、すりおろしニンニク、おろししょうが、片栗粉

作り方

鶏もも肉にフォークをさし両面に酒を振りニンニク、しょうがを好みの量す



り込み10分程置く。片栗粉をまんべんなくまぶしフライパンに油をひき皮目を下にして焼き色が付くまで焼く。焼き色が付いたら裏返し蓋をして中火で蒸し焼きにする。火が通つたら蓋を取り、もも肉に※合わせ調味料をからめる。 ※合わせ調味料 「しょう油…大さじ3 みりん・砂糖…各大さじ1.5 酢…好みの量 甘辛のタレで酢も入つてるので保存容器で冷蔵庫で3〜4日保存がきく。遠方で一人暮らしの孫が帰省した時は、ばあばの照り焼頼むと注文が入りジップロックに一枚づつ入れて何枚もち帰り冷凍しては我が家のスタミナ味の照り焼を楽しめる様です。

会員投稿

鳥井先生の誕生日

師範 富田 皓陽

五月十日、鳥井先生の九十六才の誕生日です。丁度その日は、先生のお宅での稽古日でした。

「先生、おめでとうございませ」と、用意してきたケーキに六本のローソク(九十本は省き)を立て、「ハッピーバースデーイトウユー」と唄いながら、ケーキの前にされた先生へ向けて、パチパチと記念写真を催帯に納めました。あと四才で百歳です。一五・六年前に大手術をされたとは思えないお身体！詩吟のお陰で腹筋力がつき回復も早かったとの事でした。頭はまだまだ誰にも負けない。弁と筆は立っし私達自慢の先生です。然し足が弱られ心配です。

でも稽古になると、課題吟を必ず吟じられます。各人が吟じると、良い点ほめられ、悪い処は先生が指摘され、作者の心が現われるように、詩の内容をしつかり頭に入れて吟じるようにと、厳しく注意さ

れます。七十人中の最高齢者で、六位の賞を頂いたと喜んで、ご披露されました。

横のテーブルには、先生の手作り料理が準備されていました。みんな美味しく頂き、思いのおしゃべりをしながら、賑やかなひとときを過ごしました。

感謝感謝の一日でした。何時迄もお元気で、私共を導いて下さるよう、お願いします。

毎日新聞の

「はがき随筆」に掲載

太宰府星陽会 萱嶋 桃峰

「家路」

ガーデニングの草取りをしていると、毎日夕方5時になると、うらの中学校からドボルザーク作曲の「家路」という曲が流れてくる。子供の頃から好きな曲だが、今はまた、しみじみと聴く。世界の状況を考えれば、権力におびえるこ

ともなく、一日を平穩に無事に過ごせたことに感謝の気持ちが入められる。先日、孫が来て「食事と健康に気をつけて暮らしているのを見て安心した」と言つて、2泊して帰って行った。今まで孫に言ってきた言葉がそっくり返ってきて、びつくりした。主人と笑いながらビールで乾杯の夕食だ。世界の平和を願いながら、五月十五日、毎日新聞朝刊に掲載されました。

亀井神道流西日本吟詠会

ホームページご紹介

ホームページアドレス
<https://kameigin.com/>



私のコロナ休場

岩戸扇陽会 鬼塚 鶴峰

コロナ禍で二年三ヶ月も休み、今日は久しぶりの詩吟教室です。前日は少々緊張して寝不足です。先生始め吟友の皆様笑顔で迎えられ、緊張感もほぐれ楽しい気持ちになりました。腹の底から声を出して心身が軽くなったように感じました。コロナ禍で家に籠り、単々と家事をこなす生活と比べて、とても明るく、暗い心のペールが剥がれるかのようでした。吟友の会報に、含蓄ある十項目の言葉が掲載されて、特に印象に残り、自分なりの評価と反省をしました。身だしなみ、エチケット、常識ある行動、人への思いやり、人間性など反省する点が多々ありました。今迄「チョコちゃん」の番組のように、ポーツと生きてきたかのようです。この標語を常に記憶し生活すれば、悔いのない人生が送れそうです。

明日からは、初心に省り休暇の遅れを挽回するよう練習に励みます。

吟声人語

昭和六十二年一月、初号を発行して今回で八十一号を数えた。

当初は、一月と八月の年2回であったが、途中から現在と同じ年三回の発行となった。

▼本来なら春夏秋冬の年四回が理想的であるが、催事や記事量の関係で現在のようになっている。

▼さて、暦の上では、秋となったが、旧暦と新暦の差が約一ヶ月もあり、秋を実感するのは、今少し日数を要するようだ。

▼ついこの前、吟界の「吟春」を終えたと思つたら、秋季大会や秋思祭等、「吟秋」を目前にしている。「吟春」に比べて、「吟秋」は若干の「愁」を感じさせるのは、行く秋への一種の物寂しさから来るのであるうか。

▼芸術の秋と言われるように、春とは違った文化、芸術の季節である。私達の吟声も美しく冴え渡る好時節大いに、朗々たる吟声を響かせて欲しいと願っています。

(岳)



吟界訃報

井口城勝先生急逝



故 井口城勝先生

城勝流城勝会宗家会長の井口城勝先生が、令和四年五月二十四日に逝去されました。享年八十三歳。

吟詠、剣詩舞道発展の為、多大の貢献をされた方でした。その経歴を書きしるすだけで、いかに立派なお仕事をされたかが分ります。

昭和四十五年

八女地区吟詠連合会結成

副会長 就任

昭和五十八年

八女地区吟詠連合会

会長 就任

昭和四十五年

日本吟道奉賛会

常任理事就任

昭和四十六年

西日本地区吟詠連合会

常任理事就任

昭和四十四年

九州吟剣詩舞道連盟設立

常任理事就任

昭和六十三年

九州吟剣詩舞道連盟

理事長就任

平成三年

福岡県文化団体連合会

理事 就任

平成十五年

福岡県文化団体連合会

常任理事就任

昭和四十二年

筑後市吟詠連盟創立

副会長就任

昭和五十年

筑後市吟詠連盟

会長 就任

昭和四十四年

筑後市文化連盟

理事 就任

平成八年

筑後市文化連盟

副会長就任

平成十七年

筑後市文化連盟

会長 就任

平成三年

全国朗詠文化協会

福岡県本部長

東京総本部

役員 就任

平成十六年

全国朗詠文化協会

九州支部本部長就任

平成七年

日本吟詠総連盟

常任理事 就任

平成三年

キングレコード吟詠剣詩舞会

九州支部設立 事務局長

東京本部 役員就任

平成十五年

キングレコード吟詠剣詩舞会

九州支部 本部長 就任

通夜葬儀には諫山宗家が九州吟剣詩舞道連盟を代表して参列し、故人のご活躍を偲び焼香を手向けました。

(台掌)

表彰歴

昭和四十八年

財団法人日本吟剣詩舞振興会主催

第一回全国少壮吟詠家審査コンクール特選入賞

賞状



平成七年

九州吟剣詩舞道連盟より感謝状

感謝状



平成二十二年

全国朗詠文化協会感謝状



平成二十三年

福岡県より文化功労者表彰



平成二十五年

キングレコード吟詠劇詩
舞会より特別功労賞



故 太田虹松先生

太田虹松先生 ご逝去

かねて病氣療養中だった太田虹松先生は、去る8月18日逝去されました。享年85歳。ご生前のご厚情とご功績に感謝と敬意を表しますとともに、心から安らかな御永眠をお祈り申し上げます。尚、葬儀は後日家族葬にて営まれます。

太田虹松先生 役職

- ・ 西日本地区吟詠劇詩舞会連盟会長
- ・ 毎日吟士権大会審査委員
- ・ 吟道虹松会会長



宗伝 鳥井 幸陽

私は四・五十年前、ある縁で宇宙について講演があると聞き興味をもって参加した。

その先生のお名前は覚えていないが来福される度に足を運んだ。何千年前、何億年前のことがどうして判るのだろうか？と興味をもつと研修会に参加せずにはいられなかった。

ビックバンとともに宇宙が始まる。百五十億年前：そんなことがどうして判るの？ビックバンが何故起ったのはまだ解明されていないと：然し針先よりはるかに小さかった宇宙が大爆発を起こし、急膨張をはじめると宇宙は熱い光で満ち、光の中から或る物体と反物体が生まれては消え宇宙の膨張とともに温度が

下がり全体の十億分の一に相当するクオークが残された：ビックバンは時間と空間そして物質が誕生したときでもあるとか：その十億年後、銀河が誕生(初代の天体)ほぼ同時に初代の星が誕生、星は進化過程で次つぎと新しい元素を生み出し、最後には爆発起こし、次世代の星を生み出していく。

四十六億年前膨大な星間ガスを集めて太陽が輝き始めて太陽誕生後二〇〇万年後に地球が誕生。微惑星どうしの衝突合体で大きくなった微惑星は次第に重力も強くなり、更に廻りの塵や微惑星を引きつけ取り込んでいき月ほどにも大きくなり原始惑星といわれる太陽より一億五千万軒離れたところで、地球もその一つとして誕生する。

四十三億年前の地球は火の玉地球で数億年続く。三十五億年前生命の誕生と酸素の出現：最初の生命体は原始バクテリア類、単細胞物体四億六千万年前、南の海に日本列島の元型誕生、海中の生態系の発展によりサンゴ礁が形成されて生物が生活するのに丁度よい環境ができあがり、サンゴ礁に集まる生物は活発な生存競争をくり広げて更に多くの動植物の分化が進んでい

く。この頃いまよりはるか南の海に浮かんでいた小さな島が原始の日本列島である。

日本最古の化石である介形虫は当時の海に住んでいた小さな節足動物である：。

四億年前、シダに覆われた海洋日本、五億年前地殻変動が起り、その影響を受けながら原始魚類が出現、また原始シダの仲間が水中から顔を出し生物の陸上進出のキッカケとなる。原初の日本である小さな島の廻りには、サンゴ礁が形成され多様な海洋生命が生息していた。また陸上には大型シダ類の林が形成されていた。

三億五千万年前～二億五千万年前、南の島で秋吉台が形成され、日本列島に北上、原初の日本は激しい火山活動をくり返ししながら次第に北に移動していった。

三億年前後、地球は大氷河期を迎えていた。原初の日本の気候は暖かくその周辺のサンゴ礁の海では石灰質の殻をもつた原生動物のフズリナが栄えていた。こうしたことから原初の日本は当時赤道域に大きく広がっていた暖かい海のどこかにいたと考えられている。

火山島とサンゴ礁が沈降、上昇をくり返すにつれ海水面近くで発達するサンゴ礁が次第に堆積し膨大な厚さの石灰岩

が形成されていく。現在、石灰岩のカルスト地形と大鍾乳洞で知られる、山口県の秋吉台は原初の日本を構成する石灰岩の島の一つとしてその頃形成された。そしてこの石灰岩の島も原初の日本の北上につれて移動し幾多の変動を経て現在の姿になっている。大氷河が溶け二億年～一億九千万年前、日本列島は殆どアジア大陸の東縁にくつつき大部分は海の底に沈んでいた。日本列島付近の太平洋の海底岩石がつくられたのはこの頃、大規模な地殻変動もなく中生代はシダ類が栄え原始的な針葉樹や被子植物が繁栄する。原始トンプボやゴキブリなども生息する。一億四千万年前頃日本列島に大規模なサンゴ礁が出現。日本列島の鹿児島から北海道にいたる太平洋側に延長二干年に及ぶサンゴ礁が出現、現在の高知県にある鳥の巣石灰岩はその代表例、サンゴ礁と陸地との間に浅海域が広がり、水温二十五度ほどの海中にはサンゴや魚類二枚貝、巻貝などが生息していた。

世界的には一億七千万年頃から恐竜の大発展期を迎え一億四千万年前頃には各種の哺乳類が出現している。六千五百万年前世界的な恐竜の絶滅諸説はあるが何ら

七月も半ばすぎた或る日、宗家、会長先生から電話があつて「九月号の吟友宜敷く頼む」と突然のこと、今は全くなかかわっていない私、三、四十年前は故人となられた手島先生の許で始めて、吟友にふれ編集委員の一人に加わつた。当時



かの原因で気候に突然の変化が起り環境の変化に弱い動物は絶滅、新生代に入ると恐竜に代つて哺乳類が勢力をのびし、サンゴ礁は生き残りまし

た。種々変動があり百万年前、現在の日本の地形が形成され日本列島は東西からの力を受けて山地の隆起と内陸盆地の沈降などくり返し、次第に現在の地形が形成されはじめる。十四万年前日本人の先祖出現。日本で発掘された遺跡は三万年前以降のもですが、宮城県北部の馬場壇 A 遺跡では十四万年前の地層から火をたいた跡と多数の石器が発見され、従来の常識がくつがえされた。近隣の遺跡群から出土した石器の中には二十万年以上と推定されるものもあり、日本人の祖先の最も古い生活の痕跡のひとつといわれています。

日本通信教育連盟生涯学習局 参考にして

は会員数も少なく、春と秋の大会のみの行事、四頁の吟友が一杯だった。先輩先生方がご高齢で去られた後、どうしたことが私に責任が廻つてきた。やるしかない、総て新しい人脈、編集に協力してくださる方が数人、わが家を集めて頂き編集会議方針を堅め一人でも多くの声を聞く、季節の変わりめには足を運んで写真をとる文章をつけた。当時は会員数も少なく原稿も出ない。春の大会が一回、秋の大会のみ、年に二回の吟友、四頁が一杯だった。最近では諫山宗家先生のご努力で会員数も増し九州大会・全国大会へと出場、喜びの声、写真が吟友を賑わしています。

年に一度発行される課題吟集を始め吟友に掲載される歴史的人物像漢詩、和歌一度読んで横には置けない二度、三度と読んで頭に入れたつもりが判明を覚えていないことが応々にしてある。年齢の精に勝手にしている…。

長く続いた吟友年三回の発行欠号してはならない。先生方にご協力を願つて頁数の減少を防ぎたい。宗家先生の読書力には誰も及ばない。力不足の私達許して頂き、吟友、九月号を目指します。お体大切に、養生ください。

よひごころ
西日本吟詠会へ

(敬称略)

- 四年五月二十四日
◆太宰府星陽会 樋口智鶴子
- ◆吟友光陽会 森 友子
- 四年六月七日
◆睦幸陽会 小島由紀子
- 四年六月二十一日
◆宝陽会(復会) 石橋登志子

皆勤賞受賞者

- 松嶋 蓮陽 副理事長
- 小松 扇陽 宗師範
- 田中 観陽 宗師範
- 後藤 佳陽 宗師範
- 近藤 晴陽 宗師範
- 河原田 和陽 宗師範
- 岸 凜陽 宗師範
- 吉弘 翔陽 宗師範
- 田中 了陽 宗師範
- 本田 雅陽 宗師範
- 山田 啓陽 宗師範
- 中島 光陽 宗師範
- 池田 慧陽 宗師範
- 八尋 征陽 宗師範
- 柴田 勘陽 宗師範
- 富田 皓陽 宗師範
- 森 令陽 宗師範

二〇二〇BOX

浄財ありがとうございます

(七月十九日現在)

(順不同・敬称略)

- 佐世保市梅香吟詠会副会長 西浦桜隆先生
- 鳥井 幸陽 前田 学陽
- 野村 聡陽 八尋 征陽
- 高木 仁陽 柴田 勘陽
- 諫山 星陽 山口 皇陽
- 山口 呂陽 大田 心陽
- 久保山孝陽 武内 史陽
- 平山 恵陽 船木 涼陽
- 大田 君陽 倉内 京陽
- 小松 扇陽 香月 穂陽
- 後藤 佳陽 稲毛 紅陽
- 近藤 晴陽 白石 湊陽
- 渡邊 鳳陽 小路 糸山
- 肥塚 景陽 田中 五月
- 河原田和陽 中内 鶴山
- 岸 凜陽 杉谷 玲峰
- 古賀 西陽 溝口 静峰
- 吉弘 翔陽 松原 武月
- 梁池 梁陽 内野 青峰
- 野村 真陽 安永 奈月
- 加藤 督陽 大田 富月
- 田中 了陽 沖 幸川
- 本田 雅陽 菅野 藤峰
- 成海 宝陽 白石 承峰
- 山田 啓陽 中島 光陽
- 中川 万峰 橋口 康陽
- 石崎 宝月 榑崎 忠陽
- 上田しよう山 森田 綾陽
- 今泉 鶴月 池田 慧陽

編集後記

諫山会長の突然の入院で記事が足りなくなったりし、少ないページ数でご迷惑をおかけしました。来年の一月から、又いつも通りの吟友を、お届け出来ることと思



広報部員

- 担当役員 鳥井 幸陽
- 広報部長 船木 燦陽
- 部長代行 花田 宏陽
- 副部長 船木 涼陽
- 部員 林谷 典陽
- 廣橋 岬陽

発行者 亀井神道流西日本吟詠会
事務局 那珂川市道善三六
印刷所 井上紙工印刷(株) 渡邊昇陽方

訂正とお詫び
吟友前号(第八〇号)五月号の記事中、誤りがございましたので、訂正してお詫びします。
◇7ページ 九吟連春季大会
誤 入賞 池田華月
正 入賞 池田莉月